

## 鹿児島県（鹿児島市）地域社会少林寺拳法指導者研修会

期 日：令和元年11月16日（土）～17日（日）

会 場：鹿児島県総合体育センター武道館

中央講師：中島正樹講師（正範士七段） 高坂正治講師（准範士六段）

地元講師：鮎川敏彦講師（正範士七段） 田中輝義講師（正範士七段）

参加者：38名（中学・高校教員3名、外部指導者35名）

本研修会は、中学校武道必修化特化型として開催された。参加者は、道場指導者が中心である。初日はまず、中島正樹講師の講義が行われた。中学校の授業における少林寺拳法では、「ゴール」は明確に示す必要はあるが、指導の始まり（入り口）は曖昧、アバウトで良いことや、専門用語を使わず、音楽にあわせた演武など、多様な指導方法を解説。さらに、年間に開催されている事業（指導法研究事業、特別講習会等）を紹介した。講義終了後、道場にて少林寺拳法の導入部分の実技指導案を実施。蹴り等少林寺拳法の動作に繋がる、下半身と上半身の筋肉を動かす動的ストレッチを複数実践した。続いての受け身指導では、受け身をとることへの恐怖心の緩和策として、寝た姿勢からの受け身や、二人一組で実践する膝立ちの安全な受け身を紹介した。午前中の最後に、中島講師が指導者役で模擬授業を実施。明日のグループ発表にむけて、「武道とは？」といった生徒への発問や、技が成功した時の理由等を答えさせることで思考、判断、表現力を育てる授業を実践した。



午後は、高坂正治講師から効果的な授業展開の取り組みについての講義から行われた。その中で、少林寺拳法を教材化するための授業づくりをテーマとした内容が解説され、少林寺拳法を通じて学んでほしい、身につけてほしい内容等を説明した。その後中島講師が、音楽を流した状態で形演武を実施。少林寺拳法のイメージと離れていても、ゴールである形（龍王拳等）を習得できれば良い（入り口はアバウトで良い）、として実際にリズムにあわせて演武を行った。最後に、翌日の参加者による模擬授業発表のために班別討議が行われ、初日の研修会が終了した。

翌日は、初日の指導内容を取り入れ、参加者による模擬授業が7グループで行われた。それぞれ、前日の「号令法」や「明確なゴール」等を反映させた多種多様な模擬授業が展開され、限られた授業時間の中で、効果的な授業を行うための工夫が発表されていた。中央講師の講評でも、「明日から十分に授業を行えます」といった声があがっていた。最後に質疑応答の時間が設けられ、二日間の充実した内容の指導者研修会が終了した。

#### 【参加者の声】

「目から鱗の二日間であった。経験者が初心者を指導する際に、どうしても固有名詞を用いて説明しがちになってしまう。所作の意味は曖昧でもいいから、まず経験してもらってから始める指導はとても参考になった。他の参加者にとっても、自身の殻を破ることができた研修会になったのではないかと思う。」（道場指導者・男性）

「地域の指導者には、学校の体育、武道の授業では、道院、道場の子どもと異なり、生徒の意欲の差を理解し、授業展開をする必要があることを知ってほしかった。この研修会では、参加者の中で「考え方を変える必要がある」といった感想が次々とあがっており、模擬授業では、学校における指導方法を意識した授業が行われていた。チャンスがあれば、県内のどの地域でも少林寺拳法の授業が可能であるという希望ももてた。」（中学校教諭・男性）

以上